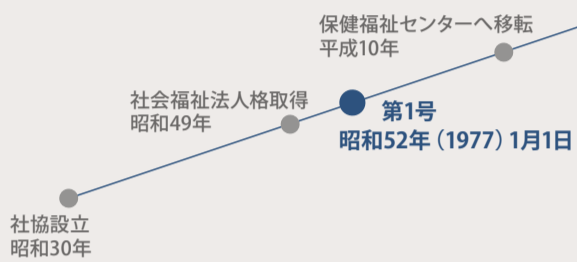


秦野市社協では、社協の組織や活動を市民の皆さんに知っていただくため、また、福祉に対する理解を深めていただくために広報紙「社協はだの」を発行してきました。発刊100号を記念して、これまで発行してきた紙面とその時の出来事を振り返ります。

社協はだの 100号の歴史

● 第100号
平成26年(2014)11月15日



第1号 昭和52年1月1日



しあわせはみんなの力で
市民の皆さんに福祉情報を届けるために広報紙の発行をはじめました。

第8号 昭和55年9月1日



中学生・高校生にみる社会福祉観
福祉ニーズを把握するため、様々な調査・研究活動に取り組みました。

第10号 昭和56年11月5日



目指すは全戸加入と地区社協づくり
社協に普通会員制度を導入し、住民主体の福祉のまちづくりへの取り組みを始めました。

30周年記念号 昭和60年12月1日



30周年記念対談
社協設立30周年を記念して当時の関係者の皆さんに社協の将来について紙上対談をお願いしました。

昭和50年代 1975~

防災基準や消防法に影響を与えたホテルニュージャパンの火災事故が起こり、中学校での校内暴力が社会問題となった昭和50年代。

社協も高齢化社会の到来に向けて、住民会員制度である社協普通会費を開始し、地区社協やボランティアコーディネーター、ニーズ対応チームなど地域福祉を進める基盤組織づくりに取り組みました。地区社協結成後は、配食やお楽しみ給食会など、主に一人暮らし高齢者を対象とした活動が展開されました。

昭和60年代 1985~

世の中がバブル景気に沸き、国鉄が分割、民営化された60年代。チェルノブイリの原発事故やベルリンの壁が崩壊するなど世界的にも大きな出来事が起こりました。

社協ではボランティア協力校や福祉教育指定校などの取り組みが活発化し、ボランティア事業など、ボランティアの育成と活動支援により、誰もが住みよい心豊かなまちづくりが進められました。

第24号 昭和62年3月31日



ボランティアによる配食サービス
一人暮らし高齢者に老人ホームで作ったお弁当を週2回、ボランティアが配達し安否確認を行っていました。

第27号 昭和63年3月1日



ボランティア特集号
「ボランティア」とは、ボランティアを増やし、ボランティア精神あふれる街づくり(ユートピア)を築こうとの願いを込めて名づけられた造語です。